



つながる。まわる。圏央道。

圏央道（神崎IC～大栄JCT）が開通しました



— 記者発表資料 —

国土交通省
東日本高速道路株式会社



圏央道の開通により、
都心経由の交通の割合が約6割から約2割に減少、
観光や企業活動が活性化するなど、ストック効果※が発現

～圏央道（こうざき神崎IC～たいえい大栄JCT）10kmの開通によるストック効果（開通1ヵ月後）～

※ストック効果：整備された社会資本が機能することによって、継続的に中長期的に得られる効果

〈主なストック効果〉

○ 都心経由から圏央道経由への転換

みやのぎ宮野木JCTとつくばJCTの間で、都心を経由する交通の割合が約6割から約2割に減少

○ 沿線企業からの輸送時間が短縮され、企業活動が効率化

成田空港からつくば市までの輸送時間が約30分短縮

○ 地域の観光・レジャー需要にも効果（地域経済の好循環）

沿線観光施設では、近隣商業施設と連携し、広範囲の集客キャンペーンを実施

沿線レジャー施設へのアクセス性が向上

○ 一般道から圏央道へ交通が転換し、周辺の一般道の渋滞が緩和

国道408号（つちや土屋交差点）の交通量 開通前41,400台/日→開通後38,800台/日 6%減少

国道408号（つちや土屋交差点）の渋滞長 開通前540m→開通後0m

さらに11月末までに東名高速から東北道が圏央道でつながります。

平成27年11月末までに圏央道（おけがわ桶川北本IC～しらおか白岡菖蒲IC間）が開通します。

- ・広域ネットワークが形成され、北関東方面から湘南方面へのアクセスが強化
- ・沿線に立地する物流施設などの利便性が高まり、企業活動をさらに支援するなどの効果が見込まれます。

圏央道開通区間概要

- 首都圏中央連絡自動車道（圏央道）は、首都圏の道路交通の円滑化、沿線都市間の連絡強化等を目的とした、都心から半径およそ40～60kmの位置に計画されている総延長約300kmの環状の自動車専用道路です。現在までに約230kmが開通しています。
- 今回開通区間の概要
路 線 名：一般国道468号首都圏中央連絡自動車道（圏央道）
○開 通 区 間：神崎IC（千葉県香取郡神崎町松崎）～大栄JCT（千葉県成田市吉岡）
○開 通 日：平成27年6月7日（日）17時
○延 長：9.7km
○車 線 数：暫定2車線
○開 通 IC（アクセス道路）：下総IC（（主）成田下総線）

■今回開通区間の位置図

